

令和 5 年 2 月の解説（週間天気予報）

【2 月の天候状況】

上旬は、期間のはじめと終わりに北日本を中心に冬型の気圧配置となった日もありましたが、高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変化しました。東・西日本日本海側では晴れた日もあった一方、北・東・西日本太平洋側では曇りや雨または雪の日があり、10 日は南岸低気圧の影響で北・東日本太平洋側を中心に積雪となった所がありました。沖縄・奄美では高気圧の縁となりやすく、前線の影響を受けた時期もあり、曇りや雨の日が多くなりました。平均気温は、東日本、西日本と沖縄・奄美では寒気の影響を受けにくかったため高く、沖縄・奄美では暖かい空気が流れ込んだ時期もあったためかなり高くなりました。一方、北日本では寒気の影響を受けて気温が平年を下回る日がありました。

中旬は、北日本、東日本、西日本では、高気圧と低気圧が交互に通過したが、期間の中頃は冬型の気圧配置が強まった日がありました。太平洋側では晴れた日が多く、日本海側では曇りや雨または雪の日が多くなりましたが、18 日から 19 日にかけて東・西日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響でまとまった雨が、19 日から 20 日にかけて北海道地方を中心に低気圧の影響でまとまった雪が降りました。このため、北日本太平洋側と東・西日本日本海側の降水量は多く、東・西日本日本海側の日照時間は少なくなりました。沖縄・奄美では、移動性高気圧に覆われて晴れた日があったため、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。全国的に期間の中頃は寒気の影響で平年を下回った日がありましたが、期間のはじめと終わりは寒気の影響を受けにくく、暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、東日本、西日本と沖縄・奄美の平均気温は高くなりました。

下旬は、24 日頃に本州南岸を前線が通過したほかには全国的に低気圧や前線の影響を受けにくく、高気圧に覆われやすかったため、降水量は全国的に少なく、特に東・西日本日本海側と東日本太平洋側ではかなり少なくなりました。また、期間のはじめと終わりに冬型の気圧配置が強まった日もあったため、日照時間は西日本太平洋側でかなり多くなりました。寒気の影響を受けやすい時期があったため、西日本の平均気温は低くなりました。

【2 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均) は、例年値(注)よりも 10 ポイント高い 81%でした。地方別の適中率では、すべての地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均) は、全国平均で例年値よりも 0.5℃小さい 1.8℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均) は、全国平均で例年値よりも 0.3℃小さい 1.7℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4 月の週間天気予報の利用にあたって】

4 月は、短い周期で低気圧が通過し、天気が変わることの多い時期です。暖かい日が多くなる一方で、低気圧の通過後に冷たい空気が流れ込んで前日より気温が大きく下がることもあります。寒暖の差が大きい時期ですので、週間天気予報で気温変化を把握し、健康管理

や農作物の管理等にお役立てください。